

講師に元理工学研究科長・伏見さんをお招きし、以下の展開でお話いただきます。

1. ヒトゲノム読破に至る物理学的発想  
--- 生命とは時計のようなものである（分子生物学のDNA支配の機械論的生命観）
2. 生命とはロウソクの炎のようなものである  
--- 非線形非平衡熱力学の生成論的生命観
3. 進化分子工学の考え方  
--- 両生命観の相補性に基づく進化能的生命観

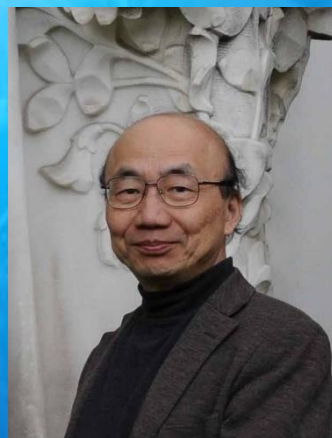
学部・学科を問わず多くの学生の皆様のご参加をお待ちしています。

## 生命現象のPhysics

--- 情報進化学との接点をめぐって ---

ふしみ ゆずる

**伏見 譲** 氏 埼玉大学名誉教授  
元工学部教授



現在世界は情報通信革命の最中にある。人間社会にとっては、産業革命に匹敵する変革だが、自然史（含・人類史）においては、3回目の情報革命だと言えるだろう。1回目は生命の起源で、それはこの宇宙における符号化デジタル情報の創発に他ならない。これによって、物質の進化は生命の進化の段階に飛躍した。情報形態の進化が、系の進化能を進化させる典型例の最初である。本講では、このような認識に導いた生物物理学的研究の系譜と、そこから導かれる生命観の変遷について述べる。

日時： 2019年12月19日（木） 13:00-14:15

会場： 埼玉大学理学部講義実験棟1番教室